



自分達はまちの御用聞き
まずは仲間づくりから！

小林 Kobayashi yasuo 泰雄さん

一般社団法人 当別青年会議所理事長

12人のメンバーでできること

今 年2月、社団法人から一般社団法人に移行した当別青年会議所。第33代理事長の小林泰雄さんは、12人の会員全員が自己の資質向上に努め、まちづくりに参加したいと語りました。

J C (青年会議所) の存在や主な運動に関して町内でも知らない方がいらっしゃるのが現状です。先日町内の他団体が主催する講演会や少子化に向けたお父さん応援講座などに参加させていただきましたが、意外にも同世代の若者が多く参加しているんですね。自分達も積極的にそのような場所で意見を述べ、地域での存在感を出していくことから始めなければなりません。

地域 のリーダーを自覚し、自分達の勉強の場を増やす。これが2012年の私の目標です。大きな事業を目指して、テーマが絞りきれなかったり、疲弊してしまうのでは意味がありま

せん。この一年は自分達の資質を高める発表会の場を演出していこうと思います。幸いにも町内には大勢のOB、先輩が協力してくれています。

知人 からは「当別っていいところだね。」という言葉をよく耳にします。潜在的な魅力が多くあるのになぜ、まちづくりや人口増加に結びつかないか？この課題解決のために、町の魅力を発見、発信する「地域の宝探し」を考えています。まず、5月にはユニバーサルデザインの専門家に市街地中心部を見てもらい、障害を持つ人にも優しい、福祉の観点からのまちづくりについて勉強し、町民の皆様と意見交換できる場を設けたいと考えています。安全で永く暮らしたい洗練されたデザインの採用は、まちの魅力に欠かせない要素だと思います。私は、メンバーに「独創的なアーティストたれ。」と呼びかけています。各々の考え方の違いや既存概念に囚われず、町民のみなさんと、我町の可能性を議論することが重要です。そしてメンバー全員

で芸術家のように、創造力豊かな感性でこのまちの取組みを発信していこうと思います。

全道 49のJ Cの仲間が5月20日に札幌市のコンベンションセンターで「北海道J Cフォーラム」を開催します。北海道の青年会議所が一般市民を対象にした初の大規模なフォーラムです。道内における「食問題」「憲法・領土問題」「防災への取組」「新エネルギー問題」等を各メディアに影響力のある女優や著名人をコーディネーターとして、各テーマ別にその分野のスペシャリスト達と多くの道民が議論します。当別青年会議所も町の情報を発信しますので、是非、お時間をつくって来場頂きたいですね！

大正5年創業の「小林商店」の店主代理。2年前に結婚。この日のネクタイは今年の当別J Cイメージ色の淡いピンク色。「想い」が成就できると真紅(Think)に変えるそうです。当別青年会議所のHPは<http://tobetsu-jc.p2.bindsite.jp/> (3月14日取材)